

2026年10月23日

各 位

会 社 名 宝ホールディングス株式会社
 代 表 者 名 取締役社長 木村 睦
 (コード番号 2531 東証 プライム市場)
 問 合 せ 先 広報・IR 部長 宇佐美 昌和
 T E L (0 7 5) 2 4 1 - 5 1 2 4

2027年3月期第2四半期（中間期）の連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2026年5月13日に公表した2027年3月期（2026年4月1日～2027年3月31日）第2四半期（中間期）の連結業績予想を下記のとおり修正しますので、お知らせいたします。

記

1. 2027年3月期第2四半期（中間期）の連結業績予想数値の修正（2026年4月1日～2026年9月30日）

（単位：百万円、％）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰 属 す る 中 間 純 利 益	1 株 当 たり 中 間 純 利 益
前回発表予想 (A) (2026年5月13日発表)	205,000	8,800	7,800	5,900	30円59銭
今回修正予想 (B)	210,870	13,112	12,764	11,682	60円87銭
増 減 額 (B－A)	5,870	4,312	4,964	5,782	－
増 減 率 (％)	2.9	49.0	63.6	98.0	－
ご参考：前期実績 (2026年3月期第2四半期)	186,556	7,786	7,386	5,695	29円40銭

2. 修正の理由

直近の状況を踏まえ、2026年5月13日に公表いたしました2027年3月期第2四半期累計期間の業績予想を修正しております。

事業別の予想は、宝酒造は、2026年10月の価格改定前の前倒し需要が想定を下回ったことにより、売上高は前回予想（2026年5月13日公表）に対して下回り、為替影響や容器包装品などのコストアップはあるものの、販売費及び一般管理費の効率的な使用に努めたこと等により、営業利益は前回予想を上回る見通しです。

宝酒造インターナショナルグループは、海外酒類事業、海外日本食材卸事業ともに売上高が前回予想を上回り、営業利益は、海外日本食材卸事業における価格改定による売上総利益の増加に加え、相互関税還付金の計上や為替影響もあり、前回予想を上回る見通しです。

タカラバイオグループは、売上高は、試薬事業が想定を下回る影響が大きく、前回予想を下回り、相互関税還付金の計上があるものの、商品構成の変化等により売上総利益が前回予想を下回りますが、Spatial製品の開発および売上進捗に応じた対価の見直しにより販売費及び一般管理費が減少することで、営業損失額は前回予想に対して縮小する見通しです。

これにより、グループ全体で売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益は、いずれも前回予想を上回る見通しです。

事業セグメント別の業績予想につきましては、本日公表の「2027年3月期第1四半期 決算短信補足資料」（PAGE 8/8）をご参照ください。

3. 2027年3月期通期の連結業績予想について

通期の連結業績予想につきましては現在精査中であり、2026年11月10日に予定している第2四半期（中間期）決算発表時にお知らせする予定です。

※ 上記の予想は、本資料の公表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、これらの数値とは異なる可能性があります。

以 上

当資料取り扱い上の注意点

当資料中の当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。